

あろうが、農家自らによる育種の可能性も失われ
てはならない。

多様な食材を提供

農業の近代化のなかで
切り捨てられてきたさま
ざまな品種は少肥でも育
ち、土壌酸性や病害にも
耐えるなど優れた性質を
持っていた。ヒエ・アワ・
キビなど雑穀類の場合、
施肥の基本は10 aあたり
1〜2tの堆肥であり、
それを補う形で少量の化
学肥料が施肥される。

もともとは化学肥料無
施肥だった。無農薬栽培
のため害虫の被害を受け
やすいが、連作を避け被
害株を除去・焼却するこ
とにより対処している
(星野次汪・武田純一「ヒ
エ、アワ、キビ」農文協、
2013)。

それぞれの土地に合っ

た多様な作物が栽培され
ることは、気象変動・災
害・病害に対する安定性
をもたらすとともに、消
費者に多様な食材を提供
できることになる。

雑穀類は健康にも良い
貴重な遺伝子資源なので
再び導入と普及を図るこ
とは意義がある。各地に
の伝統野菜も貴重な食料
資源である。これらの作
物の栽培法と利用法を開
発することは、より環境
にやさしく永続的な農業
にもつながるであろう。

北海道での輪作農業

北海道で行われている
輪作農業は根菜類（バレ
イシヨとビート）とイネ
科作物（コムギ）とマメ
類を組み合わせた優れた
農法であるが、新たな栽
培作物や緑肥の導入も含
めて、さらに多様な栽培

体系にしていけることが望
ましい。

その際、個々の作物を
栽培する一区画の面積や
幅を可能な範囲で小さく
することによって、多様
性のメリットをより多く
生かせ、土壌侵食の防止
にも貢献できるであろ
う。

私は帯広農業高校の近
くに住んでいるが、帯広
農業高校の実習圃場は南
北には約500mと非常
に長いが、個々の作物の
幅は約25mと狭く、多種
類の畑作物、牧草、緑肥
が栽培されている。

それぞれの栽培区画は
毎年シフトしている。風
食をかなり防ぐことがで
きるし、病虫害の蔓延防
止にも貢献できる。圃場
が細長いことから農業機
械の操作でも特に不都合
はないと思われる。